

「琵琶湖の保全再生に向けて」をテーマに  
オープンミーティングを開催しました！



マザーレイクフォーラム運営委員会

11月に県内2箇所で琵琶湖保全再生計画に係るオープンミーティングを開催しました。今回は、その概要について、ご紹介します。



### オープンミーティングの概要

琵琶湖を後代に継承すべき「国民的資産」として位置付けた「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が平成27年9月28日に公布・施行され、平成28年4月21日には国により「琵琶湖の保全及び再生に関する基本方針」が定められました。

これを受け、滋賀県では、住民や関係団体など多様な主体の皆さま方との幅広い意見交換を踏まえ、琵琶湖保全再生施策に関する計画を策定することとしています。

今回、その一環として「琵琶湖の保全再生に向けて」をテーマにオープンミーティングを開催し、参加いただいた皆さんと意見交換を行いました。

#### ①大津会場

日 時：平成28年11月28日（月）15:00～17:00

場 所：滋賀県大津合同庁舎 7-B会議室

参加人数：34名（3グループに分かれて討議）

#### ②彦根会場

日 時：平成28年11月29日（火）17:00～19:00

場 所：滋賀県立大学交流センター 研修室5・6

参加人数：15名（2グループに分かれて討議）



### 内 容

- (1) 琵琶湖の現状と琵琶湖保全再生計画について（説明）
- (2) グループ討議
- (3) 討議内容発表



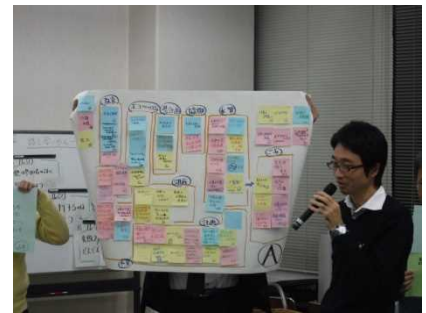
### 大津会場での主な意見

大津会場では、NPOや企業、大学など、様々な分野の方々にご参加いただき、3グループに分かれて討議しました。

日頃から琵琶湖をフィールドに活動されている方も多く参加されていたため、最初の自己紹介から話が盛り上がり、予定していた一人30秒では全く時間が足りませんでした。

した。さらに、琵琶湖保全再生計画等についての鋭い質問も相次ぎ、その回答だけでたくさんの時間を使ってしまいましたが、「水質優先で本当に良いのか。」「どうすればビワイチが地域振興につながるのか。」など、短い時間の中、白熱した議論が展開されました。

また、「県内では様々な取組が行われており、そういう取組が琵琶湖固有の財産であり価値である。」「エコツーリズムや世界農業遺産、環境教育といった未来に向けての記載もあり、素晴らしい。」などの意見もありました。



## 彦根会場での主な意見

彦根会場では、大学生や大学関係者等にご参加いただき、2グループに分かれて討議しました。大津会場より人数が少なかったことと、事前に琵琶湖保全再生計画（素案）の勉強をされた方が多く参加されていたため、かなり深い議論となりました。

「琵琶湖が国民的資産って、本当にそうなのか。」「県内の人も琵琶湖の価値をどこまで理解しているのか。」など、こちらも白熱した議論がありました。

どちらのグループからも、「活かす取組」や「企業との連携」、「価値の発信」などについて、多くの意見がありました。



## 琵琶湖へのメッセージ、計画への提案

グループ討議のあと、「琵琶湖へのメッセージ」と「計画への提案」を書きいただきました。琵琶湖を愛する皆さんの「熱い想い」と「未来に向けた提案」は、知事にも届け、想いを共有していきます。

### マザーレイクフォーラム運営委員会委員より一言 「オープンミーティングでの議論に参加して」

参加者の方と議論を交わす中で、皆さんの琵琶湖の保全再生に対する熱い気持ちと今回の法律・計画への関心の高さというものを改めて感じました。

グループ討議においては、「琵琶湖の活用」「企業との連携」「価値の発信」についての意見が多くありましたが、琵琶湖の価値については、今年度、県内約3千人を対象とした県政世論調査を行っています。結果は、「水源としての価値」が53.7%で最も高く、次いで「観光資源としての価値」が12.2%、「古代湖としての価値」が11.0%でした。

「琵琶湖は本当に国民的資産なの?」「琵琶湖の価値って水でしょ。」という意見もありましたが、『琵琶湖の価値は水源だけじゃない!』このことを広く伝えていこうと心に誓いました。(滋賀県琵琶湖保全再生課 岡田裕行)

